
ジュピター

メイシア マルキュリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジュピター

【Nコード】

N3490C

【作者名】

メイシア マルキュリア

【あらすじ】

あなたがイマそこにいる以前にはいつたどこにいたのでしょうかそれは地球の過去のどこかの国であったかも知れないそれとも地球以外の星々のどれかであったかもしれない星の輝^{ヒカリ}が私達の目に映る時その光りは何万年何億年もかけてあなたの目に映るのですその星の耀^{ソラ}きは今あなたがそこにいることを伝えているのですジュピターは宇宙のメッセージ

（前書き）

ジューピターは宇宙と人の真実と未来を解き明かしているのです

宇宙はアイより生まれ

アイによつて育まれ

アイによつて終える

私達は宇宙なる存在を何とお呼びしたらいいのでしょうか

それは宇宙神様
オヤナルカミサマ

銀河も星も人も動植物も時間も空間もあらゆる物質非物質の元は宇宙なる神にあつて

すべてはそこから現われいでたものだからです

それは一点の状態から無限の広さへと拡がり続けています

やがてその拡がりは大極に達すると反転して狭まり始めやがて元の点に戻ります

もちろん地球外にも人類は存在しております

宇宙のすべてが元はひとつから現われているのですから自分がこの星に存在しているということそのものが他の星にも人類が存在する証拠となるのです

ですから地球外の宇宙人類方は宇宙の兄弟姉妹なのです

肉体や魂の状態はその星によつて異なります

星の条件に見合った肉体や魂の状態になるのです

人としての姿は同じように見えてもその心境は異なるように

見た目が同じように見える星であってもその状態と存在する人類は異なる場合が多いのです

心は無限段階・無限領域・無限感覚・無限時間

魂の中に存在する霊は全宇宙人類共通のものです

人は肉体に魂が宿りその魂に包まれた様に霊が存在しております

霊は宇宙神より生れて星々に現われ

その星の魂と自分で現わした魂を融合し靈に纏^{マト}い
人の胎を借りて星から授かる肉体に宿り地上世界に生まれ落ちてい
るのです

人は小靈^{ミタマ}

宇宙なる神は大靈^{オオミタマ}

そこから分れてあるので小靈を分靈^{リケミタマ}とも云うのです

小靈は宇宙神ご自身でもあるのです

Every day I listen to my heart
ひとりじゃない 深い胸の奥で繋がってる

宇宙神は私達の深い胸の奥に小靈^{ミタマ}としておられるのです

なぜなら大靈^{オオミタマ}と小靈^{ミタマ}は別なようでひとつのものだからです

ですから人はいつでも宇宙神の音を聴く^{コエ}ことが出来るのです

人は本来宇宙なる神といつもいつでもひとつなのです

やがて誰もが思い出すでしょう

三才頃に聴いた天の啓示を

地上世界にあなたが生まれて初めてあなたに語りかけてくださった
その時のことを

神はあなたになにを語りかけてきたのでしょうか

人は始めにそれを思い出さねばならないのです

あなたが胸の深い奥に耳を澄まして

その音を聴く^{コエ}ならば

きつと宇宙神は応えてくれる

でも人は魂を持ち肉体を持っているので

聴こえてくる音が宇宙神のものであるかそうでないかは判断が出来

ないものです

ともするとその音は^{コエ}

生まれ変わりの中での蓄積や経験からのものであったり

肉体の要求欲望からのものであったり

霊的存在があなたの胸をかりて語るものであったりもするのです
たとえ霊能が有ったにしても神か邪かの判断はつかないものです
ですから宇宙神は必ず復唱確認をなさいます

それは天地自然の姿に

それは朝夕の太陽に

部屋に差し込む光の彩りに

木々の狭間から零れさす光りに

風や雪や雨のフルマイに

空に浮かぶ雲の形や鳥の姿に

虫やカワズの声に

それは人の行いの姿や言葉の内にも

宇宙神は天地自然森羅万象万世万物の相をして教えてくれるのです
スガタ

あなたが生まれる以前にはいったどこに存在していたのでしょうか

それは地球の過去のどこかの国であったかも知れない

それとも地球以外の星々のどこかであったかもしれない

星の輝が私達ヒカリの目に映る時

そのヒカリは何万年何億年もかけてあなたの目に映るのです

今耀いている星がすでに数億年前に消滅しているかもしれない

その星の耀きは今あなたがそこにいることを伝えているのです

この世界に偶然はありません

星の耀きはあなたの目に映るその時の為に何万年何億年も前から光
を発しているのです

それはまさに奇跡としかいいようのない出来事ではあるけれど

宇宙では至極当然なのです

神は何十億年も前からあなたが今の一瞬に星の耀きを目に映すこと
を知っておられたのです

星の耀きはあなたの心に応えているのです

Every day I listen to my heart

深い胸の内に手をあてて聴いてごらん

あなたはいつもひとりじゃない

あなたの周囲をよく観ると

あなたの着ているお洋服や家や家族や水に光に空気

すべては宇宙なる神様から現われてきたものです

それは宇宙神そのものの相スカタでもあるのです

神は靴下となりお洋服となり肉体となり魂となり

家族となり家となつて私達に仕え尽くして下さつておられるのです

人はありのままで宇宙なる神の御胸に擁かれているのです

人が真の神を知るならば

人は神の役に立ちたいと願うものです

でも自分はいつたいたいどうしたら神のお役に立てるだろうか

そのときに混沌とした暗黒を彷徨うのです

なぜなら神を知り宇宙を知れば知るほど現実の自分の姿やフルマイが

神に仇なすことはあつても役立つというところからは程遠いことが

わかつてくるからなのです

そしてその時神は云われます

人の歎き悲しみ苦しみ傷みを知りなさい

それはすべて我が歎き悲しみ苦しみ傷みなのだから・・・と

人は人生に夢や希望を持ちます

しかしその人生も先に進んでみると現実という重い石のようなものがのしかかり

夢や希望は現実を生きると云う事に摩り替えられてゆきます

人の生きる姿は様々に見えても

神からすると皆同じように見えているのです

それは自己の満足を追い求め実現してゆく道

人はそれを当然と思っているでしょう

だがこれからはつきりと言わねばなりません

私達を在らしめている大宇宙では

自己満足は罪悪であると云うことを

宇宙には法則があります

それは宇宙の成立ちに宇宙神が立てられた誓い

すべての人はその思い行いを法則に照らしあわされ

そのすべてを我が身と魂に受けるのです

いままでの人類は人の背後で護り導かれる守護神霊が80%を受けておられて

その人が受けるのは20%でよかったのですが

此れからは50%は本人が受けることとなるでしょう

自己満足な思い行いの過ちから現われたカルマによって

人は自らの本当の姿を知ることになるのです

しかしそうして夢を失うことより

もつと悲しいことがあります

それは自分を信じてあげられないこと

人は自分を信じています

ではその信じている自分と云うのは一体何者なのか

人が信じている自分と云うのは自我の想いなのです

大宇宙は個人の為に存在しているわけではありません

創生した宇宙神のために在るのです

ですから自我の想いは宇宙の法則に照らしあわされて

是か非かを問われることになります

本当に信じるべき自分とは

胸の深い所におわします宇宙なる神

その真実の自分を信じきれた時

人にその叡知と力が現われてくるのです

宇宙神はアイであられます

神のアイは人の感情想念の愛とは似て異なるものです

神への信とアイを学ぶために人は孤独と云うトンネルを越えねばなりません

孤独は永く切なく虚しく

泥の中をはいずり回るような現実をくぐり抜けねばなりません

そのトンネルは無限のようにみえて一瞬のようでもあります

トンネルをくぐり抜ける間には様々な人生があるでしょう

しかしたとえどんな事があるうと

その出来事に偶然はありません

何一つ偶然はないのです

すべては意味があり意義があり価値があるので

そのひとつ々の出来事は

やがてトンネルを抜けたときに目の前に神が現われて

その神への信と真実のアイを現わす為の原動力となるのです

ロケットが地上から宇宙へ飛び立つ時にいちばん推進力を使うのと

同じように

神への信と真実のアイを現わすには勢いがいるのです

孤独とは神の御胸に帰る時のチカラを培うことなのです

そして孤独のトンネルを抜ける時に1番肝心なのはひねくれないこと

それは直^{スナオ}

自分にスナオであり人にスナオ

現われの運命にスナオ

それは神にスナオということなのです

直^{スナオ}に勝る知恵はなし・・・

人は孤独と云うトンネルの中でやがて絶叫を上げる時がくるのです
身も心も絶え々になりながら・・・

心の静寂に耳を澄ませばきつと神の音は聴こえてくるはず
あなたが神の名を呼べばあなたの前にきつと現われてこられます
そう あなたの愛するべき存在となって
あなたは目の前に現れた愛するべき存在の姿をとった神を
抱きしめてその命の温もりを感じるのです

あなたの遥かな過去世から今まで
通ってきた人生の歎きも悲しみも苦しみも傷みも
神はすべてを知っておられます
そしてそのひとつ々は
必要な出来事であり経験であつたことも
すべての所業は宇宙神の為の経験であり出来事であつたのです

私達は

自分を赦し人を赦し

自分を愛し人もまた愛するのです

すべては宇宙神の現われの相であり神の御経験であるのですから
いつもいつでも

何処の誰もひとりではありません

神は必ずあなたの目の前にあなたの愛するべき存在として現われて
神はそこにおられるのです

そしてあなたの中にも・・・

ですから人はその身そのままいつでも神に愛されているの
です

宇宙なる神はこの現われの世界が変わりゆく狭間で

人の過去世から現在までの集大成の望みが叶うことを願い祈ってお
られます

あなたの輝ける未来の為に後悔を残さぬように

星の環境がかわるとき人は集大成の望みを実現し後悔を残さないこととがとても大切なのです

人類の課題は所有権を放棄してあらゆるすべての望みを叶えることです

運命に現われてくることはその本人が望んで臨んだことを神が実現された出来事なのです

でも人はそれに不平をもち不満をあらわし歎きに落ちてゆく
神は偽らざるその人の願望を現わしておられるのに・・・

人間は本来あらゆるすべてを尊び称え
恋しみ慕い仕え尽くすべき存在なのです
何故なら存在のすべては

宇宙なる神より現われたものだから
人類はその反対の自尊心と執着心に囚われて
自己の満足を追い求めて止まないのです
それは宇宙の理念とは正反対の世界

アイ

宇宙の真はそこに現われてくるのです

人類は自己の満足不満足の世界に生きています
神の満足・・・

人は神から現われてくるのだから自分以外のすべての望みに仕え尽くすこと

それが神の満足に繋がってゆくのです

所有権は自己と自己以外を思いどおりにしたいという想い
それは人類に階級を作り

人の世に歎きと悲しみと苦しみ傷みを現わす

人類は仕えあい尽くしあいを現わさなければならぬのです

蝉と小鳥は人類の現在と未来の姿を表現しているものです

蝉は幼虫の時は土の中で木の根の養分を吸って生活し

普通六年から七年かかって成虫になります

七は宇宙の進化の数を示し

木は宇宙神の現われの姿を表わしています

根からの養分は神の滋養であり知恵と力そして恩恵を示しています

蝉の成虫は一週間でその人生を終えます

人の一生涯は蝉の一週間に当ります

そして過去世の人生は蝉の土中に送った7年間なのです

蝉の中には地上にすることもなく土中にその一生涯を終えるものもあるでしょう

成虫になれても子孫を残せずに死ぬ蝉もあるでしょう

ヒグラシの鳴き声は世の悲しみを唄っています

アブラゼミやミンミンゼミは自己の想いを唄っています

やっと地上に出て成虫になれたとしても

外敵に襲われたり事故にあったりして命を終える蝉もあるでしょう
無事に成虫になりその一週間をおもいきり鳴いて子孫を残しその天命を成就した蝉は

次に生まれ変わる時には小鳥になるのです

小鳥になれば大いなる空を自由に飛べる翼を与えられます

神の耳を楽しませる声を授かります

そしてその愛くるしい姿を与えられます

小鳥は撒かず刈らず天地の恩恵を受けてそのままに生きてゆけるのです

人の世もやがてのうちにはそうなつてゆくことでしょう

アラタマの御世は人があらゆる所有権を放棄するということ

人は利害や思い違いの愛という鎖でお互いを繋ぎ縛りあっているこ

とに気がついてはいない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3490c/>

ジュピター

2010年10月15日20時03分発行